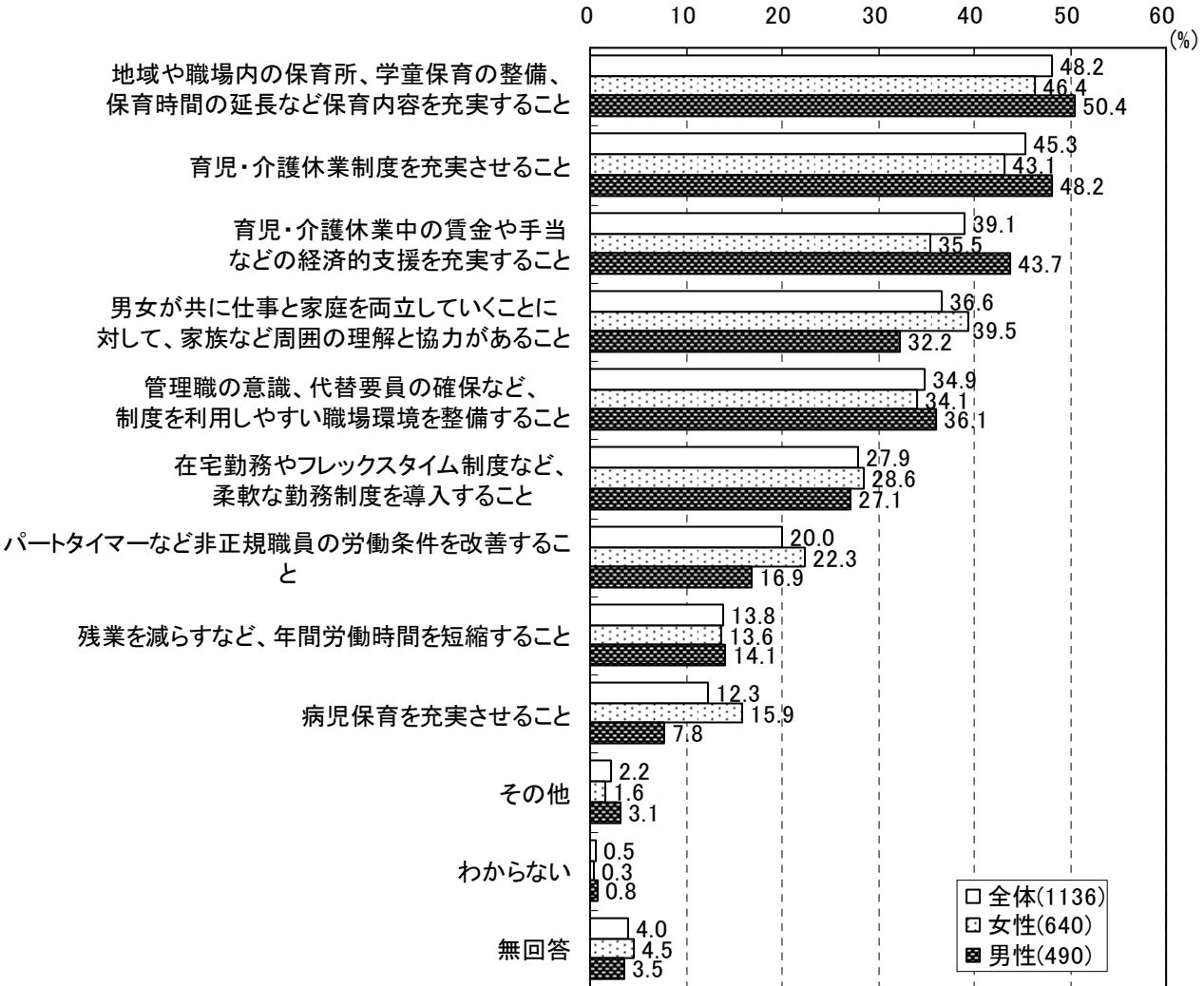


7. 仕事と家庭生活の両立

(1) 仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備

問12 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。番号三つに○をつけてください。



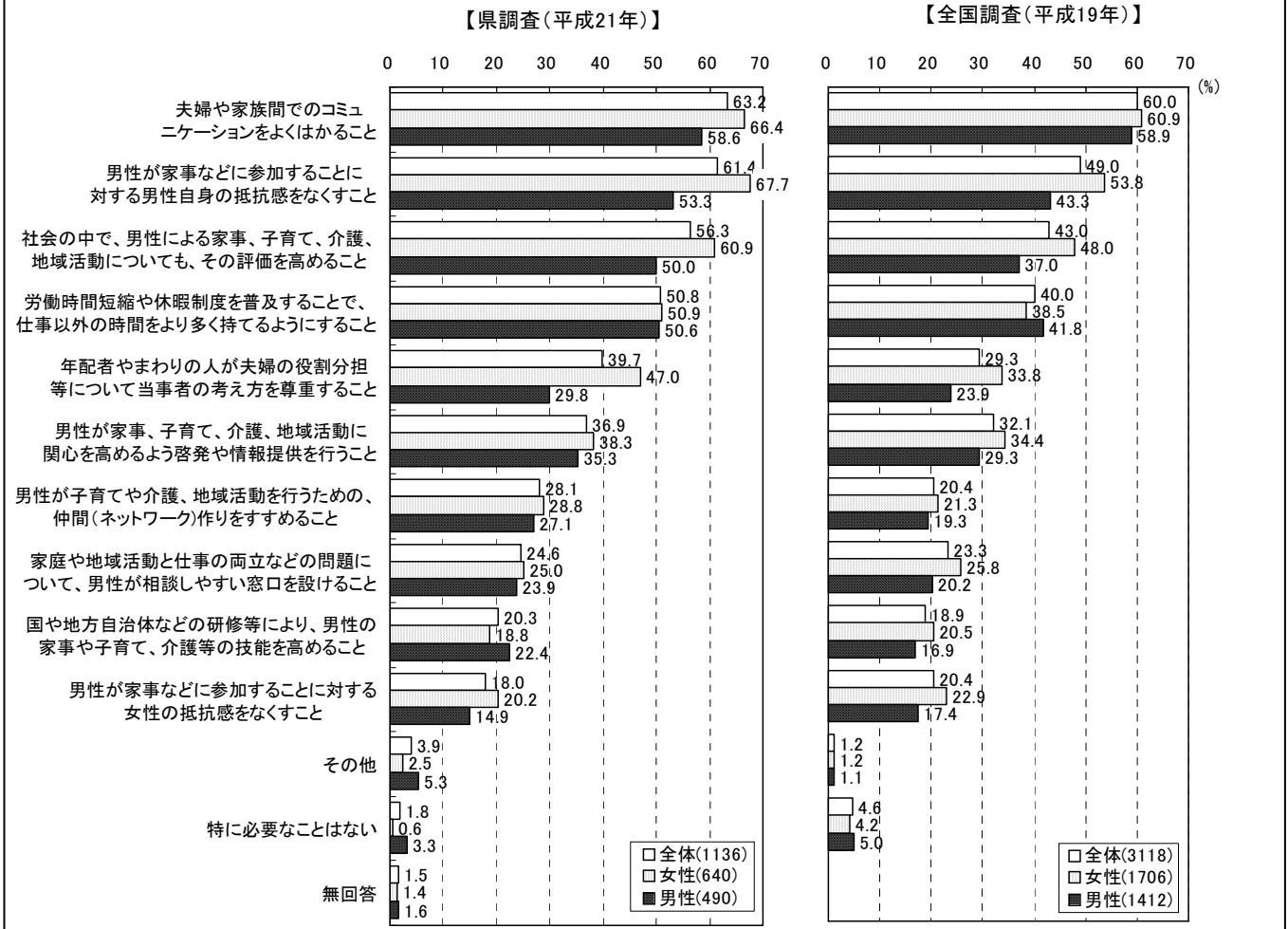
男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備について聞いたところ、男女とも『地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(女性46.4%、男性50.4%)と回答している割合が最も高く、次に『育児・介護休業制度を充実させること』(女性43.1%、男性48.2%)となっている。

『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』は、男性(43.7%)は3番目、女性(35.5%)は5番目に多く、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、家族など周囲の理解と協力があること』は、女性(39.5%)では3番目、男性(32.2%)は5番目となっている。

なお、『病児保育を充実させること』のニーズは12.3パーセントでありあまり高くないが、女性(15.9%)が男性(7.8%)を8.1ポイント上回っている。

(2) 男性が家事・子育て等に参加するために必要な環境整備

問13. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。該当する番号すべてに○をつけてください。



今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて聞いたところ、女性は『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(67.7%)が最も高くなっている。次いで『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』(66.4%)、『社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること』(60.9%)となっている。

男性は、『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』(58.6%)が最も高い。次いで『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(53.3%)、『労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること』(50.6%)となっている。

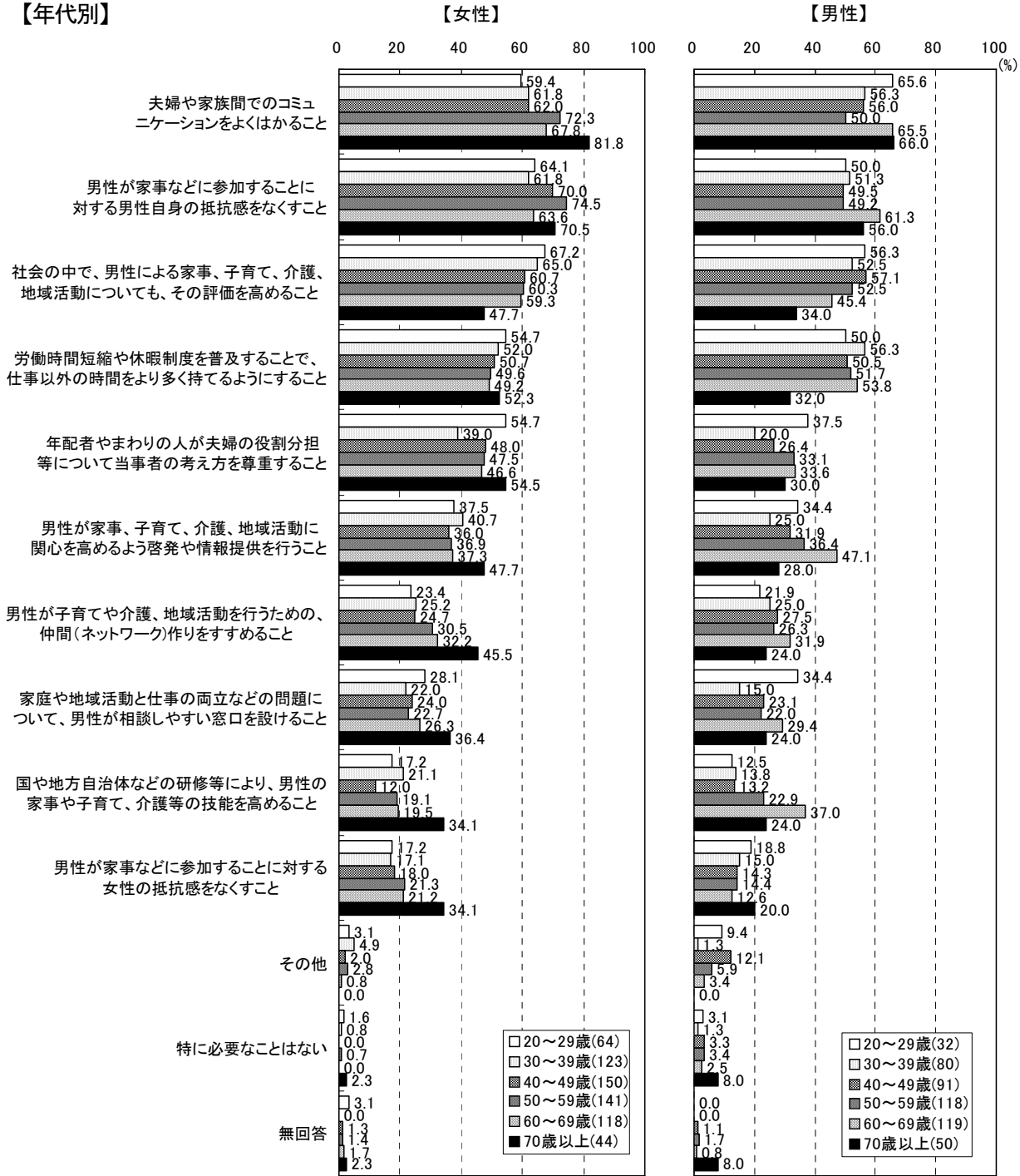
『年配者やまわりの人が夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること』は、女性(47.0%)が男性(29.8%)を17.2ポイント上回っており、男女の差が最も大きい。

【全国調査(平成19年)との比較】

内閣府が平成19年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」と比較すると、全体では上位4項目の順位は同じであるが、全国調査では男女とも『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』(女性60.9%、男性58.9%)が最も高くなっており、千葉県とは若干異なる。

また、『国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること』と『男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと』以外の項目で、全体の割合は千葉県が全国の割合を上回っている。

【年代別】



『夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること』は、女性では年代が上がるにつれて多くなっているが、男性では、20代と60代以上が65%を超えるのに対し、30～40代は50%台である。

『社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること』は、男女とも世代が若くなるにつれて多くなる傾向があるが、最も多いのは女性では20代(67.2%)、男性では40代(57.1%)となっている。

『年配者や周りの人が夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること』は男女とも20代が最も多い。

『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』『男性が家事、子育て、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと』『国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること』については、60代男性で他の年代に比べ突出している。

また、女性の70代は、ほとんどの項目で他の年代より高い割合となっており、関心の高さが伺える。